

蜷川幸雄が挑む、7度目の『ハムレット』

シリーズ「バッハとの対話」小山実稚恵 インタビュー／演劇・ダンス・音楽公演ラインナップ



PETER BROOK

A MAGIC FLUTE

After Wolfgang Amadeus Mozart





待ちに待った、という言葉がびつ
たりの『ピーター・ブルックの魔笛』
が、いよいよ春3月に彩の国で幕
をあげる。表紙まわりの写真を見
ていただければおわかりのように、
いたってシンプルな舞台。オペラ
《魔笛》を知っている方なら驚か
れるに違いない。そこは“Magic
Flute”ならぬ“Magic Brook”。ブ
ルック一流の魔術が冴えて、むしろ
《魔笛》の本質に迫る舞台が期待
される。

INDEX

SPECIAL さいたまネクスト・シアター第3回公演
『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』 03

PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾『シンペリン』
翻訳・松岡和子 インタビュー 06

REPORT 『アントニーとクレオパトラ』韓国公演リポート 08

PLAY 2012 演劇公演ラインナップ 09

PLAY 『ピーター・ブルックの魔笛』 10

DANCE 2012 - 2013 ダンス公演ラインナップ 12

MUSIC シリーズ「バッハとの対話」 Vol.5 小山実稚恵の《ゴルトベルク変奏曲》
小山実稚恵 インタビュー 14

MUSIC 2012 - 2013 音楽公演ラインナップ 16

REVIEW 2011.10-12 彩の国のアーツ 19

EVENT CALENDAR & TICKET INFORMATION 20
THEATER BRIDGE 23

表紙：『ピーター・ブルックの魔笛』 photo:2010年初演時の舞台より ©Pascal Victor / ArtComArt 編集：(公財) 埼玉県芸術文化振興財団、佐藤 優 デザイン：Yellownotes inc.
© (公財) 埼玉県芸術文化振興財団 Published on 15. January 2012 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2011年12月20日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。



いつの時代でも〈現在〉を
映し出してきた『ハムレット』に、
今、我々は何を見るのか――。

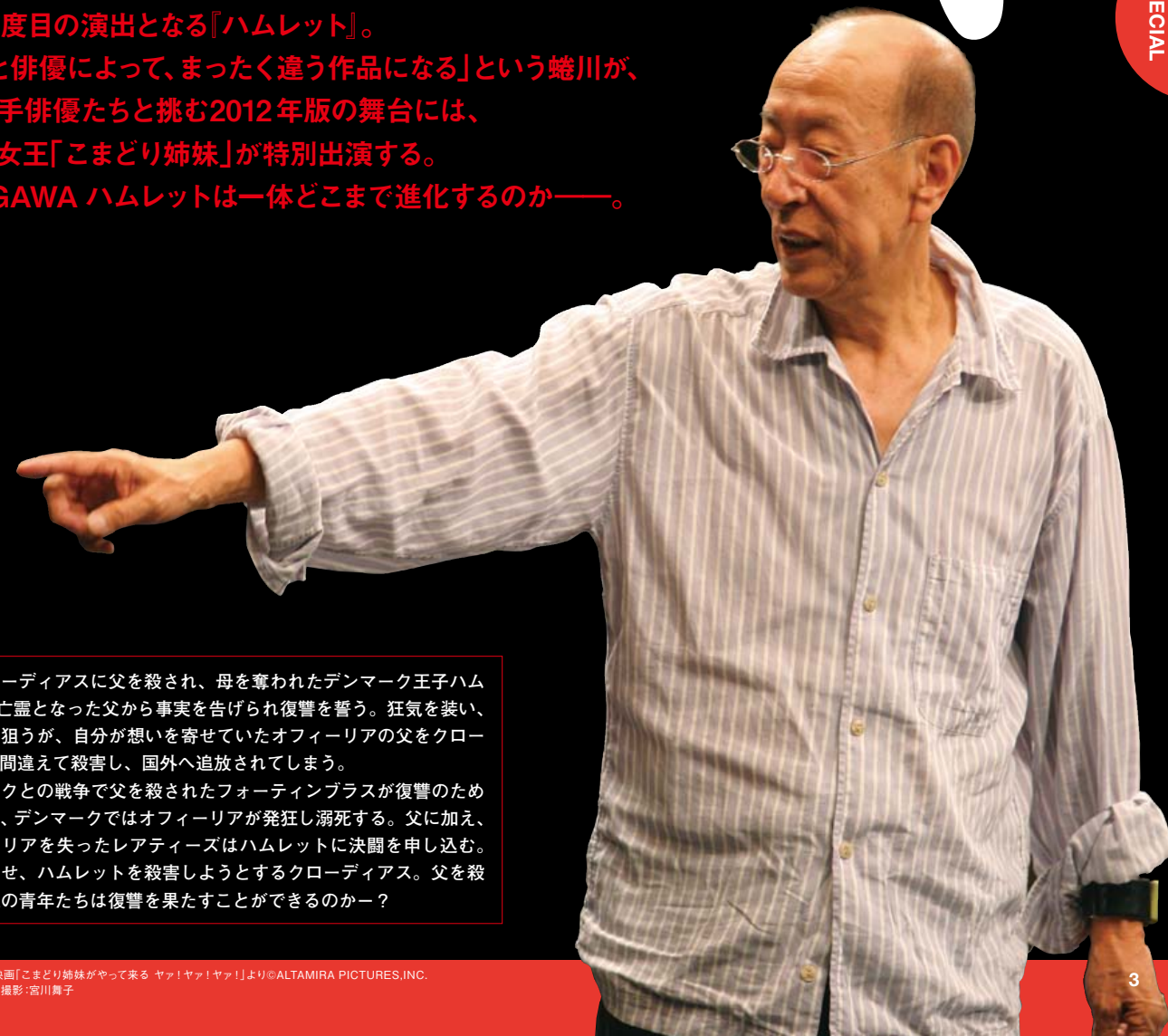
2012年・蒼白の少年少女たちによる

ハムレット

WRITTEN BY
WILLIAM SHAKESPEARE

蜷川幸雄、7度目の演出となる『ハムレット』。

「時代と俳優によって、まったく違う作品になる」という蜷川が、
無名の若手俳優たちと挑む2012年版の舞台には、
伝説の演歌の女王「こまどり姉妹」が特別出演する。
NINAGAWA ハムレットは一体どこまで進化するのか――。



[STORY]

叔父クローディアスに父を殺され、母を奪われたデンマーク王子ハム
レットは、亡霊となった父から事実を告げられ復讐を誓う。狂気を装い、
その機会を狙うが、自分が想いを寄せていたオフィーリアの父をクロー
ディアスと間違えて殺害し、国外へ追放されてしまう。

デンマークとの戦争で父を殺されたフォーティンブラスが復讐のため
進軍する中、デンマークではオフィーリアが発狂し溺死する。父に加え、
妹オフィーリアを失ったレアティーズはハムレットに決闘を申し込む。
謀略を巡らせ、ハムレットを殺害しようとするクローディアス。父を殺
された3人の青年たちは復讐を果たすことができるのか？

こまどり姉妹写真／映画「こまどり姉妹がやって来る ヤァ!ヤァ!ヤァ!」より©ALTAMIRA PICTURES,INC.
蜷川幸雄・舞台写真／撮影：宮川舞子



文：扇田昭彦〔演劇評論家〕

蜷川幸雄がこれまで演出した作品のうち、もっとも多くの作品を手掛けた劇作家はシェイクスピアである。

1974年に演出した『ロミオとジュリエット』から、2011年秋に演出した『アントニーとクレオパトラ』まで、蜷川演出のシェイクスピア劇は合計20本に達する。

しかも蜷川は、『ロミオとジュリエット』『リア王』『マクベス』などについては、新しい演出で再挑戦しているから、新演出で再度手掛けた作品をそれぞれ1本と数えるなら、蜷川のシェイクスピア劇演出は延べ33本という圧倒的な数になる。

中でも、蜷川が新しい演出で執拗に挑戦を重ねているのが『ハムレット』だ。1978年の初演出以来、蜷川はキャスト、翻訳、装置、衣裳などを大胆に変えながら、何度も演出し直している。2012年春のさいたまネクスト・シアターでの新演出を含めると、海外を含めて蜷川の『ハムレット』演出は7回にも及ぶ。

なぜ、これほどまでに『ハムレット』にこだわるのか。これについては蜷川自身が『埼玉アーツシアター通信』36号で明確に語っている。

「『ハムレット』は謎が残る戯曲だから、いくらやってもやり残した感覚があるんです。時代と俳優によって、まったく違う作品になる」

以下、蜷川演出による7つの『ハムレット』をたどってみよう。

蜷川演出による7つの『ハムレット』

Hamlet

1978年に平幹二郎が帝国劇場で主演した舞台①では、ハムレットを取り巻く王宮の腐敗した状況を表すために、デカダンで傾いた美意識が過剰なまでに強調された。アートディレクターを務めた辻村ジュサブローの無国籍的で装飾的な衣裳と厚塗りのメーキャップが目立った。

劇中劇の場面では、大きな階段に宮廷人たちが日本の伝統的な雛祭りの人形のように並んだ。部分的な場面ではあるが、これは2年後の『NINAGAWA マクベス』で本格化する、蜷川の日本の趣向によるシェイクスピア劇のきっかけとなった重要なシーンだった。雛祭りの趣向はその後、②と③の舞台にも引き継がれた。



1

1978年／平幹二期主演、小田島雄志訳、朝倉拱装置、帝国劇場
写真提供：東宝



2

1988年／渡辺謙主演、坪内逍遙・小田島雄志訳、中越司装置、スパイラルホール、恵比寿ファクトリー

10年後の1988年に渡辺謙が主演した舞台②は、坪内逍遙と小田島雄志という新旧2つの翻訳を同時に使ったユニークな演出だった。劇は室町時代の設定で始まり、緋毛氈を敷いた階段に、雛人形のような宮廷人たちが階級的秩序を示して居並ぶ。しかも、古風な逍遙訳で始まった台詞は、途中から現代的な小田島訳に変わり、衣裳も現代服が増えていく。『ハムレット』を特定の時代に限定せず、現代にも通じる普遍的なドラマとして描く舞台だった。

その終幕でノルウェーの王子フォートンブラスは、日本の帝国軍人風の軍服姿で登場した。彼は階段上の椅子に座り、軍刀を片手に傲然と足を組む。すると若い臣下たちは和服を脱いでカジュアルな洋服になり、階段を駆け上って新しい支配者に犬のようにすがりつくのだ。これはすでに①の幕切れでも見られた趣向だが、ファシスト的な権力者に容易になびきがちな現代の若者たちを批判的に描く鮮烈な演出だった。

これに対し、1995年に真田広之が主演した舞台③は、メタシアター(演劇についての演劇)風の演出の趣向が目立った。上下2層の装置のうち、上の階はすべて俳優たち



3

1995年(98年再演) 真田広之主演、松岡和子訳、中越司美術、銀座セゾン劇場(現・ル・テアトル銀座)
撮影：谷古宇正彦

の楽屋で、演技人間としてのハムレットが強調された。また、ポローニアスの一家を互いに信頼しあう家族として描くのも印象的だった。だからこそ、この一家崩壊の無残さが胸に迫った。

この公演は、蜷川が松岡和子訳を初めて使った点でも記憶に残る。日本の『ハムレット』上演史に初めて女性の翻訳が加わったのだ。そしてここからシェイクスピア劇上演における蜷川と松岡訳との連携作業が始まった。

2001年には、すでにベテランの俳優だった市村正親(当時52歳)がハムレットを演じ、さわやかな演技を見せる初舞台の篠原涼子(オフィーリア)と共演した④(この舞台が縁となり、4年後、2人は結婚する)。

これはほとんど装置を置かない簡素な舞台で、王クロードシアスの抑圧体制を暗示する有刺鉄線が何本も舞台上に立っていた。ここではフォーティンブラスは軍人姿ではなく、オートバイに乗る若い暴走族のリーダーとして現れた。



4

2001年／市村正親主演、松岡和子訳、中越司装置、彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
撮影：谷古宇正彦



5

2003年／藤原竜也主演、河合祥一郎訳、中越司美術、シアターコクーン
撮影：細野晋司

2年後の2003年、蜷川は思い切って若い演技陣を起用し、スピード感と疾走感のある『ハムレット』を作り出した⑤。主演の藤原竜也は当時21歳、オフィーリアの鈴木杏はまだ16歳、レアティーズ役の井上芳雄も24歳だった。翻訳も気鋭の英文学者・河合祥一郎の新訳を使用した。

この公演では、観客がステージをはさんで向かい合う対面式の舞台を設定。舞台上には俳優たちを囲む金網のフェンスが置かれ、サーチライトが客席まで照らし出す。強制収容所のような抑圧的監視体制を強調する硬質の装置だった。

6

2004年(英語上演)／マイケル・マロニー主演、中越司装置、プリマス王立劇場、バービカン・シアター(ロンドン)など英国内を巡演

翌2004年、蜷川は旧知の英国のプロデューサー、セルマ・ホルトの依頼により、英国で原語版『ハムレット』を演出した。主演はマイケル・マロニー。1999年に蜷川がロイヤル・シェイクスピア・カンパニー(RSC)で演出した『リア王』でエドガーを好演した気鋭の実力派俳優だ。中越司(装置)、原田保(照明)、小峰リリー(衣裳)など主要スタッフは日本側が務め、英国の演技陣に混じって日本から平岳大が出演した。

7

2012年／さいたまネクスト・シアター、河合祥一郎訳、中西紀恵美術、彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター

さいたまネクスト・シアター第3回公演

『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』

日時：2月20日(月)～3月1日(木) 会場：彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター(大ホール内)

※大ホール舞台上の特設客席のため、客席及び椅子の形状が通常とは異なりますのでご了承ください。

客席形状が決定次第、ホームページにてお知らせいたします。

演出：蜷川幸雄 作：W.シェイクスピア 翻訳：河合祥一郎

出演：さいたまネクスト・シアター／こまどり姉妹(特別出演)

チケット(税込)：全席自由

一般 4,000円 メンバーズ 3,600円

2月	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	3月	1
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
13:00												
18:30												

【関連企画】こまどり姉妹のドキュメンタリー映画『こまどり姉妹がやって来る ヤァ!ヤァ!ヤァ!』上映(P.20～21)、埼玉県内在住・在学の中高校生限定「稽古場見学会」(P.23)を開催!

GYM BELINE

翻訳・松岡和子が語る

彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾

『シンベリン』の胆



■第6弾『テンペスト』(2000.5-6)
孤島に流された父と娘、父プロスペローは魔術で自分が受けた屈辱に対し翻弄するが、最後は魔術を捨て突然の和解。蜷川演出では、父＝プロスペローを演出家に仕立て、佐渡の能舞台で現代の役者たちのリハーサルが次第にシェイクスピアの劇中世界に変わっていくという趣向だった。



■第12弾『ペリクリーズ』(2003.2-3)
航海の途中で嵐に遭い、ペリクリーズの波瀾万丈の旅が始まる。次々と起こる不思議な出来事、そして運命を乗り越え、妻子と喜びの再会をするという物語を、冒頭と幕切れに戦場で傷ついた人々を登場させ、盲目の琵琶法師が座長を務める旅役者一座が演じる「希望の劇」に見立てた。



■第21弾『冬物語』(2009.1-2)
嫉妬心の強いシチリア王だったが、16年を経て奇跡が起きる。捨てた娘と再会、死んだはずの妻も生き返るというロマンス劇。旋回する紙ヒコーキ、巨大なボンベイ壁画が舞台を彩り、失われた時の永遠を慈しむような古物語として蜷川演出は再生させた。

“試し”と“許し”のある「ロマンス劇」

——『ペリクリーズ』『冬物語』『テンペスト』と『シンベリン』の四作をシェイクスピアの「ロマンス劇」と呼ぶ。

1600年代はじめ、時代はエリザベス朝からジェイムズ朝に移り、シェイクスピアは『ハムレット』をはじめとする4大悲劇を書いたあとに、『アテネのタイモン』『アントニーとクレオパトラ』を経て、のちに「ロマンス劇」と呼ばれる4本を書きました。

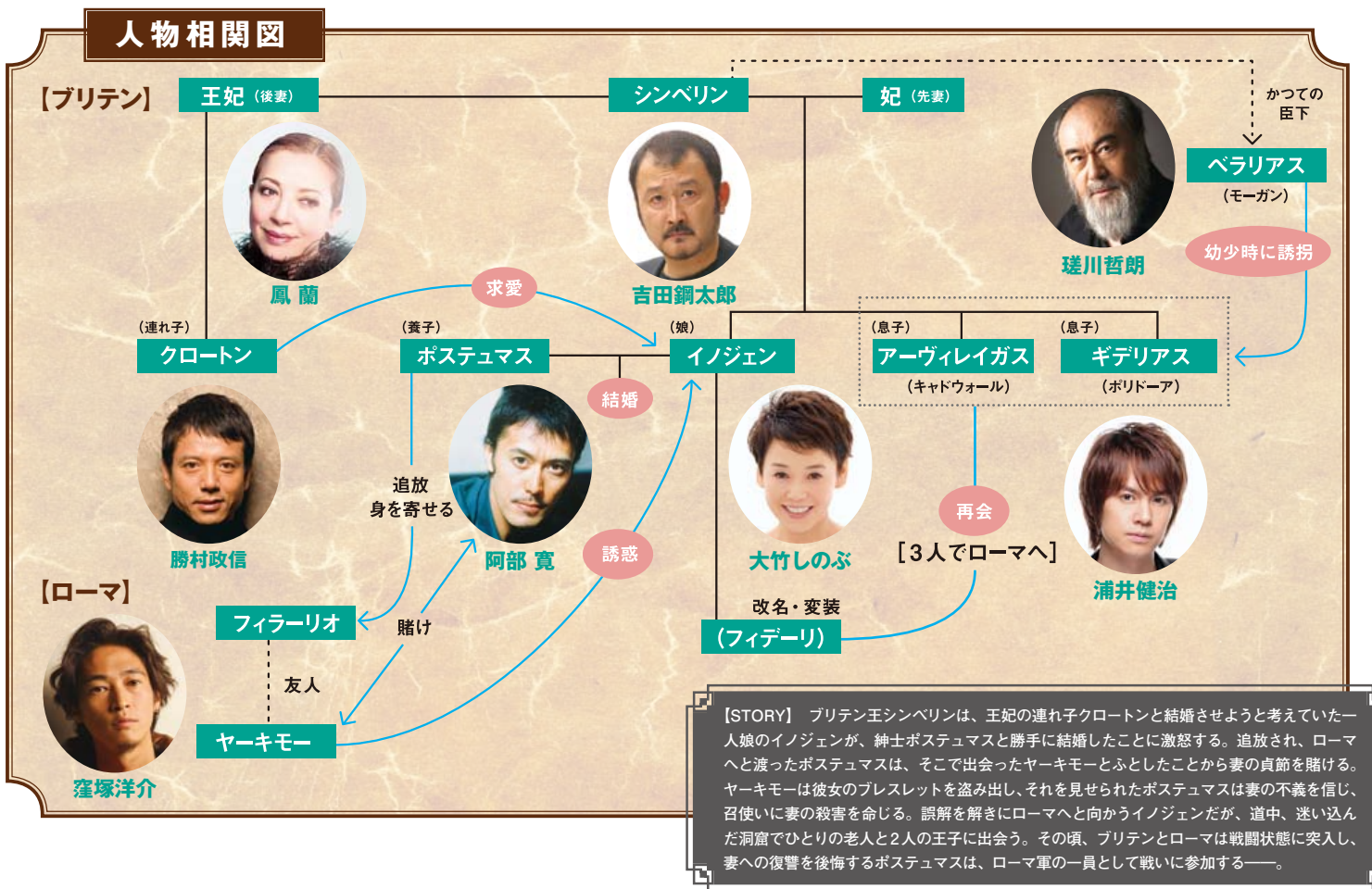
当時、悲喜劇(Tragicomedy＝トラジコメディ)と称される芝居が流行り、その担い手の一人であるジョン・フレッチャーは「人が死なない、死のすれすれまで行くがハッピーエンドになる芝居」という趣旨の定義をしています。シェイクスピアはそれを知っていながら、『シンベリン』では主要な登場人物を2人も死なせ、それでもハッピーエンドにたどりつくという芝居を書きました。敢えて簡単に言ってしまうと、「ロマンス劇」は「人死のあるハッピーエンドの芝居」だと言えます(『テンペスト』は例外ですが)。

——これまであまり上演されていなかった「ロマンス劇」が昨年来、上演の機会が増えている。

2011年、未曾有の3.11東日本大震災がありましたが、シェイクスピアのロマンス劇の上演が多かったことと震災被害とのあいだに不思議な共鳴を感じます。人間は、悲惨なことがあればあるほど心の底からハッピーエンドを求めるということでしょうか。私自身の経験に照らしても、人間の究極の願望は、亡くなった人にもう一度会いたいということだと思います。親とか兄弟とか、あるいは好きな人と死に別れて、慚愧の思いついて誰でも絶対ありますよね。一瞬でもいいから生き返ってほしいという思い、ロマンス劇は、そういう不可能な思いを叶えられる劇だという気がします。お客様は舞台上の夫婦なり親子兄弟なりが実は生き別れなんだということを知ってますが、登場人物たちは知りません。それぞれが大切な相手を永遠に失ったと思いついて、それが最後になって、実は生きていたと判明する。当事者にとっては、大切な人の死からの蘇りですよね。だからこそロ

マンス劇が私たちの心に響き、上演が増えているんじゃないでしょうか。

おもしろいのは、シェイクスピアの初期の喜劇に『間違いの喜劇』がありますが、これも一家離散の悲痛な場面から始まり、主人公のイジーオンにとってエミリアという奥さんは死んだことになっている。でも最後に生きていたとわかり、家族は再会します。最初に書いたことから始まったシェイクスピアの創作の軌跡が、最後になって起点に戻ってきて円環が閉じるという感じです。これもまた奇跡みたいな気がします。ロマンス劇のいちばんの胆は、肉親の生き別れ、そして再会です。それに神託などの超自然の力が働くということもあって、筋立ては本当におとぎ話みたいで、「そんなこと、聞いてないよ」みたいな話がぬけぬけとでてくる。でも、ご都合主義って見事に書かれると奇跡になると思うんですね。現実世界ではそんなにうまく事が運ぶわけがない、でもやっぱり起こる時は起こる。奇跡を求めるということも私たちの究極の願望ですし、最後になってみんながいちばん望んでいる大団円がもたらされるのも、観客の共感を得る所以じゃないでしょうか。



——『シンベリン』はいちばん苦いロマンス劇。なぜならそこに“試し”の要素が入っているから。

話は飛びますが、『ヴェニスの商人』って、『十二夜』なんかと較べると私には「なんかやなところ」がある作品。最近その「やなところ」が何かがようやく分かったんです。それはね、これが人を試す劇だから。たとえば、バサーニオはアントーニオがどれほど自分を愛してるかを試すわけです、それから彼らはシャイロックを試し、最後の最後になってポーシャが愛の記念である指輪を使ってバサーニオを試す。私は、個人的にも試すという考えや行動が好きじゃない。たとえ罪のないものであっても、策を労して人を試すというのが嫌なんです。実は、それが『シンベリン』にはあるんですね。男と女のなかでいちばんやってはいけない“試し”、ポステュマスとヤーキモーの賭けの結果、何も知らないイノジェンは試されちゃうわけです。試されて、結果としてシロと出たはずなのに、罠にはまってまったく逆のクロだということになり、今度はポステュマスも試されちゃう。人間の究極の願望が死者との再会だとすれば、絶対やっちゃいけないことは人を試すことだ

と思います。4本のロマンス劇のなかで『シンベリン』の独自性をみるとしたら、そこじゃないでしょうか。

——『シンベリン』に登場する人物はみんな欠陥人間だといえるが、王の娘イノジェンは凜としてピュアで、“許す”心もある。

イノジェンは、積極的な、ものすごく強い女性です。一言でいうなら、“凜とした”という形容がぴったり合いますね。ピュアとか無垢という、どこか弱さ、はかなさがありますが、彼女はそうではなく、本当に凜としてピュア。そういう特徴が台詞の一つひとつにこもっています。イノジェンが特別なのは、自分が試されたとか、はめ

られたとか、誤解を受けたとかということがあっても、決して恨まない、“許す”女性だからです。

その“許し”もロマンス劇によくみられるのですが、『シンベリン』では、王は息子たちを誘拐したペラリアスを許し、ポステュマスも騙したヤーキモーを許し、そしてイノジェンも夫ポステュマスの激しい嫉妬を許し、王は2人の結婚を許します。

まさに大人のおとぎ話で、舞台にかかる俄然おもしろい。それがロマンス劇4作の共通点です。『シンベリン』もぜひご覧いただいて、大きな喪失感があったからこそ味わえる大団円を楽しんでいただきたいと思います。

彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンベリン』

日時：4月2日(月)～21日(土) 会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

演出：蜷川幸雄 作：W.シェイクスピア 翻訳：松岡和子

出演：阿部寛、大竹しのぶ、窪塚洋介、勝村政信、浦井健治、瑠川哲朗、吉田鋼太郎、鳳蘭 ほか

チケット(税込)：一般S席9,500円/A席7,500円/B席5,500円/学生B席2,000円

メンバーズS席8,600円/A席6,800円/B席5,000円

4月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
13:00				休						休										
18:30				休						休										

★：映像収録のため場内にカメラを設置いたします

■ 韓国公演レポート

海峡を渡った『アントニーとクレオパトラ』

これまで何度も彩の国発のシェイクスピア・シリーズは本場イギリスで、またニューヨークで上演されてきたが、今回初めての韓国ソウル公演が実現した。その熱狂ぶりを現地からレポートする。



Photo: 清田征剛

取材・文＝上野紀子 [ライター]

「私は自分を巨匠だなんて思っていない。つねに“闘う老人”であるのみだ」

彩の国から始まった『アントニーとクレオパトラ』公演の最終の地、韓国ソウルでの記者会見で蜷川幸雄はそう語っていた。熱望を受けての公演にもかかわらず、前傾姿勢で快活な闘争心をあらわにする老演出家を、現地の記者たちはどのように見たのだろうか。

ソウル・江南に位置するLGアートセンター（1103席）は国内の音楽、ダンス、ミュージカル公演のほか、海外の注目作の数々を招聘してきた実績をもつ劇場だ。芸術に関心ある韓国人にとってLGのラインナップを観賞することは一種のステイタスともいえる。とはいえ、はたして日本人が演じるシェイクスピアを観ようと思う人がどれほどいるだろうか……という危惧はあった。しかも最上のS席7万ウォン（約5000円）は、演劇公演としては高額だ。チケットサイトを見ると初日と楽日のチケットの売れ行きがよく、少々安堵する。そして迎えた11月24日、韓国公演

初日の劇場ロビーは、そんな危惧を吹き飛ばすかのよう観客の期待の熱気で賑わっていた。ちなみにプログラムは3000ウォンという破格の安さ！ 日本のプログラムの内容がハングルに置き換えられ、小冊子にぎっしりと詰め込まれている。

男女比はほぼ同等、学生から年配者まで幅広い層が客席を8割がた埋めていた。幕が開き、オブジェの後ろから俳優たちが現れて一列に並び、一礼すると、歓迎の拍手が沸き起こった。すぐさま芝居が始まり、駆け抜けるような場面展開に観客が強力に引き込まれていくのがわかる。ステージの左右に配置された字幕で、矢継ぎ早に繰り出される台詞を確認しながらの観劇は、なんともめまぐるしい。しかし、最小限に削ぎ落とされた字幕の台詞が物語を非常にわかりやすくしていることに気づく。シェイクスピア本来の言葉の旨味は半減しているだろうが、目の前で熱演している俳優たちの感情の動きを観客にストレートに楽しんでもらうのに、簡潔な字幕は功を奏していた。後で字幕操作をしていたスタッフに話を聞いたところ、松岡和子さんによる日本の上演台本の翻訳と、もともと韓国で翻訳されていた台本とを擦り合わせ、さらに瞬時にわかるよう言葉を絞り込むのに相当苦労したと語っていた。

一幕の中盤くらいから、観客は字幕と舞台の同時集中に慣れてきたようで、クレオパトラがいながらすんなりオクテーヴィアとの結婚を快諾するアントニー（吉田鋼太郎）や、嫉妬心ゆえの激しい怒りを使者に浴びせまくるクレオパトラ（安蘭けい）の姿に、素直な笑い声をあげていた。とく

に反逆心をコミカルに表現するイノバース（橋本じゅん）へ向けて好意的な笑いを連発。また、さいたま同様に全速力で客席通路を爆走する俳優を、好奇の視線で追う。あっという間の90分が過ぎ、インターバルのロビーでは初めて日本演劇に触れた観客たちの、興奮のおしゃべりがあちらこちらで響いていた。二幕に入ると、観客の温かい眼差しに後押しされた俳優たちが、これまでにない気迫に満ちた芝居を展開。アントニーが死に損ねて情けなくのたうちまわる場面は日本でも笑いを誘ったが、韓国では遠慮のない爆笑が起こった。まさに劇的なクレオパトラの死を見届けて、3時間超の舞台の幕が引かれる。カーテンコールでも俳優たちを温かく称える観客の熱量は、安蘭けいの登場で最高潮に達した。地鳴りのような歓声に迎えられた安蘭けい、そしてラストに登場した吉田鋼太郎に惜しめない拍手が送られる。二度目のカーテンコールでは蜷川も舞台に登場し、観客総立ちのさらなる歓声と拍手を引き出した。

終演後のレセプションパーティーで、蜷川は「韓国で公演することに怖れをもって。かけ離れた文化のほうが理解しやすい場合があり、近い場所の異なった文化のほうが難しくデリケートな問題をもって。と思ったからです。でも今日、初めて緊張が解けました。俳優の皆さん、今日が一番良かったです」と挨拶。続けて、韓国をルーツとする安蘭けいに「日本と韓国の大切な架け橋。安蘭、ありがとう」の一言を送った。期せずして涙するクレオパトラの姿に誰もが胸を詰まらせて、韓国公演の初日は感動のうちに終了した。



今年も全開！疾走する蜷川幸雄演出に目がはなせない

2012年、『ハムレット』『シンペリン』に続いて、春から夏へ、間髪入れずに蜷川ワールドはとどまることを知りません。早くも話題の村上春樹の長編の舞台化、21年ぶりの井上戯曲、そして人気のオールメール初の悲劇と、三作三様の舞台が揃いました。

5月 村上春樹の世界的ベストセラー小説『海辺のカフカ』

『ノルウェイの森』『羊をめぐる冒険』『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』『ねじまき鳥クロニクル』『1Q84』……数々の作品で知られ、世界中に多くの読者をもつ作家・村上春樹の長編小説が、遂に日本で舞台化されます。『海辺のカフカ』は、「世界で最もタフな15歳になる」ことを決意し、15歳の誕生日に家出をしたカフカ少年を中心に、現実とも夢ともつかない世界を行き来しながら進んでいく物語。ギリシア悲劇と日本の古典文学を下敷きにしたという、独特の空気を色濃くまとったこの作品の世界観を蜷川幸雄はどう表現するのか。そして、主人公を演じるのは、2004年に史上最年少でカンヌ国際映画祭最優秀男優賞を受賞した柳楽優弥。蜷川のたつての希望で出演が決定、初舞台に挑戦します。共演者に、蜷川作品へは6度目の出演となる田中裕子をはじめとした魅力的なキャストを迎え、この春、文学界と演劇界にあって、共に世界に向きあってきたふたつの偉大な才能がいよいよ融合します。

日時：5月3日（木）～20日（日） 会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
原作：村上春樹 演出：蜷川幸雄 脚本：フランク・ギャラティ
出演：柳楽優弥、田中裕子、長谷川博己、柿澤勇人、佐藤江梨子、高橋 努、木場勝巳 ほか
チケット（税込）：一般 S席9,800円／A席7,000円
メンバーズ S席9,000円／A席6,300円
発売日：一般 2月18日（土） メンバーズ：2月11日（土）
※メンバーズの方には、別途ご案内するプレオーダーがあります。



柳楽優弥



田中裕子

5月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
13:00																		
13:30																		
18:00																		
18:30																		

7月 井上ひさしの『しみじみ日本・乃木大将』

日本演劇界の顔、井上ひさしと蜷川幸雄の組み合わせ最新作は、評伝劇『しみじみ日本・乃木大将』。“日露戦争の英雄”と称えられた明治の軍人、乃木希典陸軍大将を描いたこの作品は、「聖将」と神格化される一方で、「愚将」との評価も付きまとった乃木希典の真の姿に迫っていくもので、第14回紀伊国屋演劇賞個人賞、第31回読売文学賞も受賞した、井上ひさしの代表作のひとつ。井上戯曲ファンの間でも傑作の誉れ高い本作の上演は、1991年以来、実に21年ぶりとなります。先年他界した井上を偲ぶ企画「井上ひさし生誕77フェスティバル2012」の1本に数えられ、名優・風間杜夫を筆頭とする実力派俳優とともに、蜷川幸雄がこの初期傑作にどのような新しい光を当てるのか期待が高まります。

日程：7月12日（木）～29日（日） 会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
作：井上ひさし 演出：蜷川幸雄
出演：風間杜夫、根岸季衣、六平直政、山崎 一、大石継太、朝海ひかる、香寿たつき、吉田鋼太郎 ほか
発売日：一般 5月12日（土） ※メンバーズの方には、別途ご案内するプレオーダーがあります。



風間杜夫



根岸季衣

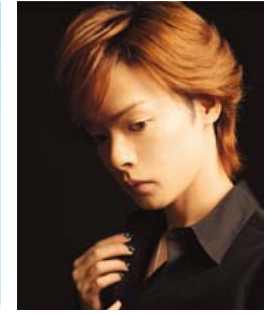
8月 オールメールで初のシェイクスピア悲劇『トロイラスとクレシダ』

4月の『シンペリン』に続く「彩の国シェイクスピア・シリーズ」の第26弾は、『トロイラスとクレシダ』に決定。『お気に召すまま』『間違いの喜劇』『恋の骨折り損』『から騒ぎ』『じゃじゃ馬馴らし』と、いずれも好評を博してきたオールメール・シリーズ（シェイクスピアが戯曲を書いた時代にならない、全ての役を男性が演じる）での上演となります。これまで喜劇を上演し、毎回会場を賑やかな笑いに包んできたオールメール・シリーズですが、今回は古代のトロイを舞台に、戦争と愛の2大テーマを風刺的に描いた悲劇に挑戦します。タイトルロールの2人を演じるのは、『じゃじゃ馬馴らし』で美男美女カップルを演じ、瑞々しい魅力にあふれ息のあった芝居を見せた山本裕典と月川悠貴。この2人が再びコンビを組み、新たなステージへと踏み出すオールメール・シリーズは見逃せません。

日程：8月中旬 会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
演出：蜷川幸雄 作：W. シェイクスピア 翻訳：松岡和子
出演：山本裕典、月川悠貴 ほか 発売日：4月予定



山本裕典



月川悠貴

ピーター・ブルックによる 謎解きなしの《魔笛》

20世紀を代表する世界の演出家ピーター・ブルックの、
21世紀の新作《魔笛》が、いよいよ彩の国でベールを脱ぐ。
ピーター・ブルックがなぜ《魔笛》に着眼したのか、
オペラに造詣の深い音楽評論家の長木誠司さんが解明する。

音楽が鳴り続ける、その意味では少々融通の利かないオペラ・セーリアのようなものではなく、即興的な部分を含んだ楽しい台詞劇を観ながら、その合間に歌手の歌を楽しむ、そんな屈託のない娯楽作品が《魔笛》という「オペラ」であった。

こうした劇場のために、モーツァルトとシカネーダーは、一方で「夜の女王のアリア」のようなコロラトゥーラの超絶技巧的な歌を採り入れ、また主人と従僕それぞれの男女ペアを作るなど、伝統的なオペラの作劇法にのっとりながらも、幅広い聴き手のことを考えて民謡風の歌をアリアの様式に採り入れた。例えば、シカネーダー自身が演じたパパゲーノの有名なアリア“おいらは鳥刺し”の3節3番からなる歌、あるいは初めて出逢ったパミーナとパパゲーノが、お互い相手がいないことや男女の結び付きの大事さを歌う二重唱などなど。これらの曲において音楽は、聴くひとの耳に素直に染みていくとともに、歌われた内容も同じように耳の底に残る。そもそも、超高音で歌われるアリアのように歌詞の聴き取

りにくさが無い。しかしながら、家庭の平穩、男女の和合を歌う後者は、少々説教臭い、抹香臭いと受け取られるかも知れない。モーツァルトの時代、オペラは一種の教育の道具であった。それは究極的には神や君主の栄光と徳を称えるための装置であったと言ってもよい。実は、シカネーダーとともに仕事をしたモーツァルトにとって、この《魔笛》は彼自身が入っていた秘密結社フリーメイソンの思想を普及させる、一種の「教材」でもあった。秘密結社と言っても、なにも隠れて悪事を働くようなものではない。二重唱でも歌われていたように、人類愛や友愛、人間同士の親睦の実現を意図する団体だ。だから、人間同士の宥和を歌う《魔笛》には、その世界がフリーメイソンのそれであることを意味するさまざまな記号や数字—— 三角形や数字の3—— などなどが散りばめられている。

現代のわれわれにとって、すなわちオペラを教化の道具や場とは余り感じずに、むしろそこから人間同士の一般的なドラマや愛の姿、感情の真実を受け取ろうとするわ

れわれにとって、モーツァルトが込めたこれらさまざまな「メイソン記号」はやや重荷になることがある。あらゆる場面に現れるこの記号は、ともすると人物たちの姿に不要なバイアスを与えかねない。

今回、ピーター・ブルックは、《魔笛》からそうしたモーツァルトにとっては「純粋な」、われわれにとっては「不純な」(?)要素をいっさいはずして、この作品を人間だけのやりとり、あるいはどこまでも「純粋に」人間くさい物語に還元している。ひとびとの行動は、教理経説にとらわれな、健やかで自然な動機から発生するような仕組みになっている。それゆえ、等身大

を超えるような偉容な大道具も、威厳さを誇る神殿風の舞台設定も不要である。舞台の上にはすぐにでも数を数え切れるような竹の棒と、あといくつかの小さな道具があるにすぎない。3人の侍女も、3人の童子も、3人の僧侶も、とにかく象徴的な3に関わるものはまず登場しない。そして、あの3つの印象的な和音、《魔笛》を開始する、そしてフリーメイソンやザラストロの世界を現すあの3つの堂々とした和音も、1台のピアノによって静かに、控え目に鳴らされるだけだ。そしてすぐに、救いを求めるタミーノのアリアの音楽へ。でも大蛇だつて現れない。その代わりになるのは、味方

にも敵にもなるようなひとりの役者の存在。原作にないこの人物がいかに立ち回るか、それは他の人物たちの振る舞い方次第である。そして火も水も試練には関係ない。試練とは人間同士の関係が自ずと形作るものだからだ。

こうして、解釈とか謎解きといった病気に苛まれている現代人のわれわれにとって、解けない謎のようだったオペラ《魔笛》、フリーメイソンとの関係だけで何冊も本ができてしまったような《魔笛》は、どうやらそうしたしがらみをようやく脱して、素直に楽しめる等身大の歌芝居になったようだ。ブルックの狙いどおりに。

『ピーター・ブルックの魔笛』 ※ドイツ語(歌)・フランス語(台詞) 上演 <日本語字幕付>

日時：3月22日(木)～25日(日) ※上演時間：約90分(途中休憩なし)
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
演出：ピーター・ブルック 原曲：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
翻案：ピーター・ブルック、フランク・クラウチック、マリー＝エレヌ・エティエンヌ
チケット(税込)：一般S席8,000円/A席5,000円/学生A席3,000円
メンバーズ S席7,200円/A席4,500円

【関連企画】展示、映画上映、トークなど、『ピーター・ブルックの魔笛』をより楽しんでいただくための関連企画を続々開催！ 詳細はP.23をご覧ください。

	3月	22	23	24	25
曜日		木	金	土	日
15:00				●	●
19:30		●	●		

【STORY】

大蛇に追われ森に迷い込んだ若き王子タミーノ。すんでのところで助かったタミーノは、夜の女王より一人娘パミーナが悪者にさらわれ捕らえられていると聞く。パミーナの肖像画を一目見て恋に落ちた王子は女王より魔法の笛を授かり、鳥刺しの青年パパゲーノと共にパミーナ救出の旅に出る。パミーナを捕らえているザラストロとは何者か。タミーノは恋する相手を救うことができるのか――。

2010年初演時の舞台より ©Pascal Victor / ArtComArt

DANCE Line-up 2012 - 2013

心の琴線にふれるダンス、ダンス、ダンス… 世界の選りすぐりの舞台を彩の国で

なんとも多彩で、奥深いダンス・プログラムが並んだ。生身の身体で魅せるダンスだが、音楽はもちろん、演劇、文学、美術、映像などの要素も自在に取り込み、さらなる次元へ昇華、観る者の心と感性をゆさぶる。

7/6~8

りゅーとびあレジデンシャル・ダンス・カンパニー Noism1 新作公演

見世物小屋シリーズ 第3弾 『Nameless Voice』(仮)

日程：7月6日(金)~8日(日)
会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
演出・振付：金森 稔 出演：Noism1
発売日：一般 3月31日(土) メンバーズ 3月24日(土)
初演：2012年6月(新潟)予定

「Noism」(りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館劇場専属舞踊団)の活動を核に、近年はサイトウ・キネン・フェスティバル松本2011でのオペラの演出振付でも注目を集める金森稔。常に未知の地平を開拓し続ける彼が、近年継続して取り組んでいる「見世物小屋シリーズ」の第3弾をお届けします。第1弾の『Nameless Hands ~人形の家』は口上で幕が開きます。人形と黒衣、そして人間とが入れ替わっていくさまを、ドラマチックな演出と仕掛けで展開、ダンスシアターとしての新境地を広げ、第8回朝日舞台芸術賞舞踊賞・キリダダンスサポートを受賞しました。第2弾『Nameless Poison ~黒衣の僧』は、チャーホフの短編をモチーフに、すれ違いながら苦悩する人々の世界を表現。待望の最新作では、“声ーVoice”を新たな切り口として描きます。Noism1メンバーたちの、磨き込まれた身体から発せられる物語にご期待ください。



見世物小屋シリーズ第1弾『Nameless Hands ~人形の家』より Photo: 篠山紀信

11/23~24

バットシェバ舞踊団 『Sadeh21』

日程：11月23日(金・祝)~24日(土)
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
振付・演出：オハッド・ナハリン
出演：バットシェバ舞踊団(18名予定)
発売日：8月予定 初演：2011年5月

コンテンポラリーダンスのカンパニーが数多く活躍するイスラエルの中でも、最もエネルギッシュなバットシェバ舞踊団によるオハッド・ナハリンの最新作をお届けします。長年にわたり、世界的な注目を集めているナハリンの振付は、野性味とコントロールの利いた精密さを併せ持つダイナミックな動きが魅力。2010年の来日公演『MAX マックス』では、ダンスに寄り添い合うような力強く謎めいた楽曲と、鍛え上げられたダンサーの発するエネルギーとが心地よい緊張感をもたらし、動きを立体的に浮かび上がらせる照明効果の中、原始的な空間の広がりを感じさせる群舞が展開されました。本作『Sadeh21』(2011年イスラエル・フェスティバルにて初演)では、観る者を宇宙へと誘った映画『2001年宇宙の旅』のように、ダンスを通じた振付と身体の進化の旅へとアナタを深く誘っていきます。



Photo: Gadi Dagon

1/26~27

2013

アクラム・カーン 『DESH』(ソロ)

日程：2013年1月26日(土)~27日(日)
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
振付・演出・出演：アクラム・カーン 発売日：10月予定
初演：2011年9月

ヨーロッパのみならず世界各地で公演を重ねるアクラム・カーン。バングラディッシュ系イギリス人の彼は、インドの古典舞踊様式「カタック」とコンテンポラリーダンスとを融合させ、民族色と普遍的な表現とが相まった彼独自のスタイルを活かしたダンスを見せてきました。シディ・ラルビ・シェルカウイとの共作『ゼロ度』(2005年初演)を当劇場で上演。2006年に発表したシルヴィ・ギエムとの共作『聖なる怪物たち』も話題を呼びました。本作タイトルの『DESH』は、ベンガル語で母国(homeland)を意味する言葉。「地球内部の水に魅了され、その流動性が自身の考え方や動きの核ともなっている」と話すカーン自身の身体や言葉の中に紡がれる物語。映画『グリーン・デスティニー』の美術など数々の受賞歴があるティム・イップが映像を、映画『アイズ・ワイド・シャット』のジョスリン・ブークが音楽を手掛けるほか、照明、詩、作曲にも強力なスタッフをキャストした、アクラム・カーンのソロ作品上演です。



Photo: Richard Haughton

子どもと
大人のための
ダンス
プログラム

6/23 システム カスタフィオール

『Stand Alone Zone ~スタンド・アローン・ゾーン』



Photo: Karl Biscuit

日程：6月23日(土) 会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
発売日：一般3月31日(土) メンバーズ 3月24日(土)
共催：東京日仏学院 初演：2009年

「2813年秋、人間は地球から離れて、天上の国に隠れ家を見つける…。」現実とファンタジーを行き来するようなSF的物語を描き出すのは、フランスのアーティスト集団、システム カスタフィオール。美しく精密に描かれたアニメーション映像と、舞台上に現れるパフォーマーの実像をクロスさせ摩訶不思議な世界にあなたを誘うダンスシアターが日本初登場。本作『スタンド・アローン・ゾーン』は、未来都市で架空の動物、奇想天外な容姿のキャラクターが登場します。往年の巨匠タルコフスキーの名画『ストーカー』を思わせる未知なるゾーンへと踏み込んでいく登場人物たち。大人も子どもも惹き込まれる魅惑の要素たっぷりの舞台です。

2/10~11

2013

日本昔ばなしのダンス

誰もが知っている昔ばなしの世界を、個性派アーティストたちがダンスで綴る、子どもと大人のためのダンス公演シリーズ。2006年から3度にわたり新作上演し、全国各地でのツアー公演でも大好評を博しています。今回は老若男女に大人気、舞台・映画に引っ張りだこの近藤良平(コンドルズ)、舞台活動を展開し続けながら、数々のCMや映画の振付も手がける伊藤千枝(珍しいキノコ舞踊団)、2人の人気振付家が再び登場!各アーティストが待望の新作を上演。可愛らしい衣裳やノリノリの音楽、ちょっと不思議なカラダの動きなど、一つの物語から溢れだす沢山のイメージを組み合わせ、ダンスの楽しさ、身体表現の豊かな可能性や多様性に触れる機会を提供します。親子、ご家族皆さんそろってお楽しみください。



日程：2013年2月10日(日)~11日(月・祝) 会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
演目：『モモタロウ』(新作) 振付：近藤良平 出演：「コンドルズ」選抜メンバー
『わらしべ長者』(新作) 振付：伊藤千枝 出演：「珍しいキノコ舞踊団」選抜メンバー
発売日：11月予定
2011年公演より「へっこきよめ」「ねずみのすもう」 Photo: 宮川舞子

映像で
ダンスを観る
プログラム

9月予定 彩の国さいたま芸術劇場
dance on screen 2012

日程：9月予定 会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール 発売日：未定

フランス国立シネマテック・ド・ダンスの所蔵映像を中心に、これまで世界各地で発表されてきた数々のダンス作品を上映します。日本では紹介されていない作品も多数。この機にぜひ劇場で珠玉の作品映像をご覧ください。



小山実稚恵 こやま みちえ・ピアノ

人気・実力ともに日本を代表するピアニスト。1982年チャイコフスキー国際コンクール第3位、85年ショパン国際ピアノコンクール第4位と、日本人としてただ一人2大国際ピアノコンクールともに入賞。2006年からは年2回ずつ12年間・24回リサイタルシリーズ「小山実稚恵の世界」に取り組み注目を集める他、ソロ・室内楽・オーケストラとの共演をはじめ、シリーズの企画・演奏でも高い評価を得ている。ソニーより1月には26枚目のCD『ヴォカリーズ』をリリース。05年度文化庁芸術祭音楽部門大賞、05年第7回ホテルオークラ音楽賞受賞。

たりしますね。あるいはアリアとある変奏の比較をしたりとか、3つの変奏の塊で弾いてみるとか。指定された繰り返しを、したりしなかったりということも試みますね。繰り返す場合でも、繰り返した後には強弱のニュアンスを変えるとか。それにももとは2段鍵盤のチェンバロのために書かれている作品なので、現代のピアノで弾くと技術的に難しい部分も多いんです。それをどう解決するかを考えたり、もう《ゴルトベルク》は無限にすべきことが出てきます。それが現代の演奏家の好奇心を刺激するのでしょうか。

の作品の中でも個人的な色彩を強くもっていて、ある意味でバッハの中で異色とも言えるものだと思います。最初に置いた《平均律第2巻》の第15番ト長調は《ゴルトベルク》と同じ調で、演奏会全体のプレリュード的な位置づけです。

——《ゴルトベルク変奏曲》はアリアと呼ばれるひとつの旋律（テーマ）を30回変奏し、最後に再びアリアに戻って終わる。フォルケルの『バッハ伝』によれば、この作品はある不眠症の貴族のために書かれたという。そのエピソードから、貴族に仕えた鍵盤楽器奏者の名前（ゴルトベルク）を冠して呼ぶようになった。

変奏曲としてこんなに壮大な規模の作品は、他にはありません。カノンやフーガがふんだんに盛り込まれていて、その豊かさには本当に驚かされます。フーガを書くということがどんなに難しいかということ、私自身も学生時代にフーガを作曲したことで経験しています。それを、バッハはまるで呼吸をするかの如く、難なく次々に書き続けました。それを考えるだけでも、バッハの才能というのは、まさに宇宙的と言えるのではないのでしょうか。

——ところで《ゴルトベルク変奏曲》にはこれまで様々な名演が残されている。小山さんりのアプローチ法とは、どのようなものなのでしょう？

《ゴルトベルク変奏曲》では、まずバスの音の動きが絶対的と言えるほど重要なんです。だから左手でバスの音だけを弾きながら、右手でそれぞれの変奏の音符を弾いてみるとか、そういう練習をし

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画「バッハとの対話」 【Vol.5】 小山実稚恵の《ゴルトベルク変奏曲》

日時：2月25日（土） 開演14:00 会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目：J. S. バッハ：《平均律クラヴィーア曲集第2巻》より 第15番 ト長調 BWV 884
最愛の兄の旅立ちに寄せるカプリッチョ BWV 992
ゴルトベルク変奏曲 BWV 988

チケット（税込）：
一般：正面席4,000円 メンバーズ：正面席3,600円 ※バルコニー・学生席は予定枚数終了

取材・文：片桐卓也〔音楽ライター〕 Photo：細野晋司

—— 2011年の12月から継続されている「バッハとの対話」シリーズ。その最終回にはいよいよ鍵盤楽器が登場する。ピアノは小山実稚恵。彩の国さいたま芸術劇場ではラフマニノフ&スクリャービンのピアノ曲連続演奏会を行ったり、ソロだけでなく数々のアンサンブルでもお馴染の小山が、今回バッハの中から選んだのは《ゴルトベルク変奏曲》を初めとする3つの作品だ。

バッハという人は、すべての作曲家の上に君臨しているような存在だと思います。バッハ以後の作曲家でバッハのことを尊敬していない人はいない。みんながバッハの作品を研究して、尊敬し、崇めている。その存在感を喩えてみれば、ニュートンの万有引力の法則のように、音楽の世界の根本的な法則のようなものではないでしょうか。リンゴが落ちることには理由がある、とニュートンが発見して以来、この世界の秘密が解き明かされたように、バッハは音楽の世界のすべての部分に通じる法則をうち立てた作曲家、そんな大きさを感じます。

—— 弦楽器奏者にとって無伴奏曲はバッハの書いた一種のバイブル的な存在だが、鍵盤楽器奏者にとってそれに該当する作品はあるのだろうか？

難しいですけど、あえて言うならば《フーガの技法》でしょうか？

2巻にわたる《平均律》はもっとユニバーサルな存在だと思いますし、楽曲構成から考えると、弦の無伴奏曲が舞曲をたくさん取り入れていることから《フランス組曲》や《イギリス組曲》が近いとも言えますが、少し性格が違うような気がしますね。より技法を突き詰めて考えた作品ということで《フーガの技法》が近いかなと思います。

今回は数多くのバッハの鍵盤楽器の作品の中からあえて《ゴルトベルク変奏曲》と《最愛の兄の旅立ちに寄せるカプリッチョ》などを選びましたが、これはバッハ



シリーズ「バッハとの対話」
Vol.5 小山実稚恵の《ゴルトベルク変奏曲》

大バッハと正面から向き合う 小山実稚恵

チェロ、ヴァイオリンに続いて、シリーズ「バッハとの対話」最終回に登場するのは、ピアニスト小山実稚恵さん。数多くの鍵盤楽器作品から、「あえて選んだ」という難曲《ゴルトベルク変奏曲》に小山さんは挑む。その真意を語っていただいた。



MICHIE
Interview
KOYAMA

このうえない妙なる音色にひたる悦び、 彩の国のコンサート

桜満開の春から、芸術の秋、そしてニューイヤーと、
彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールを中心に、
年間を通じてコンサートが楽しめる。
今シーズンも多彩なクラシック・プログラムがずらりと揃った。

CONCERT SEASON 2012 - 2013



604 席の音楽ホールを彩る珠玉のコンサート

「ピアノ・エトワール・シリーズ」

音響の豊かさに恵まれ、演奏者からも聴衆からも高い評価を得ている彩の国さいたま芸術劇場の音楽ホール。そのハードを活かした充実のラインナップを、2012年度もお届けします。

まずは、シリーズ企画からご紹介。2007年度にスタートして以来、顔ぶれとプログラムで着々と支持を広げている『ピアノ・エトワール・シリーズ』。「来年度のラインナップは？」と楽しみにしてくださっていた方も多いようです。

シリーズ18人目に迎えるのは、ブルガリアの鬼才、エフゲニ・ボジャノフ。カリスマともいえるほどの異才ぶりは、全世界にインターネット中継された2010年のショパン国際ピアノ・コンクールでも絶賛と議論を呼び起こし、広く知られるようになりました。このコンクールで審査員を務めたピアノ界の女王、アルゲリッチをして「ボジャノフは他の誰もくれない特別なものを与えてくれた」と言わしめた、天賦の才能の持ち主の登場に期待が膨らみます。

続いては、ポーランド系カナダ人のヤン・リシエツキ。1995年生まれの成長著しい10代のピアニストは、薫り立つ品格を漂わせた、内面から溢れ出る高貴な演奏

で聴衆の心を捉えています。2011/12年のシーズンは、パーヴォ・ヤルヴィ指揮バリ管弦楽団のシーズン開幕演奏会にも抜擢された若き才能にご注目ください。

日本人ピアニストとしては……。お待ちかねの方が多いかもしれません。名教授クライネフ門下に良い日本人ピアニストがいる、と聞いていたら、2006年ミュンヘン第2位、2007年クララ・ハスキル優勝、と立て続けに権威あるコンクールで受賞を重ね、いまや広く知られる存在となった河村尚子が、彩の国さいたま芸術劇場に初登場です。

ここまでで、20人のピアニストたちをこのシリーズでご紹介してきたことになります。「あのピアニストをまた彩の国さいたま芸術劇場で聴きたい」という声も寄せられ、「未来の巨匠」をご紹介するシリーズとしても開始から5年、「その後」を追うのにも機が熟してきました。そこで、2012年度より『ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール!』を新たにスタートいたします。その第1回に招くのは、このシリーズの初回を飾ったラファウ・ブレハッチ。思慮深くレパートリーを広げている彼だけに、今度はどのようなプログラムを聴かせてくれるのでしょうか？

PIANO ÉTOILE SERIES

Vol.18
Evgeni Bozhanov



Vol.19
Jan Lisiecki

Vol.20
Hisako Kawamura

Photo: 寺澤有雅



アンコール! Vol.1
Rafał Blechacz

©Felix Broede/DG

「現在シリーズ」

トップ・アーティストが3年にわたって劇場独自のプログラムを展開する『現在シリーズ』は、第二弾の小曾根 真が3年目を迎えます。これまで、児玉 桃との初デュオでの《春の祭典》や、ソロでのインプロヴィゼーションで聴衆を虜にしていた小曾根は、3年目、新たな企画を膨らませているところ。ひときわ「現在」にこだわるだけに、内容の発表は直前、ないし当日になるかもしれませんが、どの演奏会にも共通

贅沢な音響空間が 活きるラインナップ

2012年度には、2人の才媛ヴァイオリニストのリサイタルも聴き逃せません。一人目は、日本で4年ぶりのリサイタルを行う諏訪内晶子。今回は名手イタマル・ゴランとともに、民族色の濃い作品を集めています。あえて東京公演を行わず、室内楽ホールでの開催を強く希望して組んだプログラムは、関東では当音楽ホールでしか聴けません。

庄司紗矢香は、2010年の「コンサート・ベストテン」(『音楽の友』誌)にも取り上げられるほど大きな話題を呼んだジャンル



Akiko Suwanai

Photo: Leslie Kee

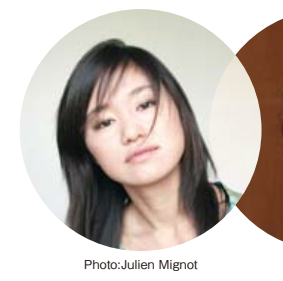


Photo: Julien Mignot



Photo: Silvia Lelli

Sayaka Shoji & Gianluca Cascioli

■ Saitama Arts Theater Concert Schedule

4. 21 (土) 15:00	レ・ヴァン・フランセ
4. 24 (火) 19:00	諏訪内晶子 ヴァイオリン・リサイタル (ピアノ: イタマル・ゴラン)
6. 9 (土) 15:00	ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.18 エフゲニ・ボジャノフ ピアノ・リサイタル
9. 29 (土) 14:00	ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.19 ヤン・リシエツキ ピアノ・リサイタル
10. 7 (日) 15:00	庄司紗矢香 & ジャンルカ・カシオーリ デュオ・リサイタル
11. 25 (日) 14:00	ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.20 河村尚子 ピアノ・リサイタル

2013.	
2. 2 (土) 16:00	ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.1 ラファウ・ブレハッチ ピアノ・リサイタル
2. 9 (土) 15:00	小曾根 真の現在 Vol.3
3. 2 (土) 15:00	村治佳織の現在 Vol.1 (フルート: ヴォルフガング・シュルツ)
3. 30 (土) 16:00	バッハ・コレギウム・ジャパン バッハ《ヨハネ受難曲》

する「今、ここでしか聴けない」というプレミアム感がいっそう感じられるコンサートになることは間違いありません。

加えて、『現在シリーズ』第三弾には、村治佳織が登場。「30代は良い音楽家と出会いたいと思っていた」という彼女が第1回目を迎えるのは、ウィーン・フィルの首席奏者を長く務めたヴォルフガング・シュルツ。ギターとフルートは相性も良く、オリジナル曲が多い組み合わせ。ウィーンの伝統を体現する名匠との共演で、新たなステージの幕を開けます。



Makoto Ozone

Photo: Florian Burger



Kaori Muraji

Photo: Kiyotaka Saito

カ・カシオーリとのデュオで再登場。このデュオでのベートーヴェン・ソナタ集のレコーディングも順調に進んでおり、ベートーヴェンを中心にしたプログラムを予定しています。

音楽ホールには、木管の響きもびったり。4月にはスーパー・アンサンブル、レ・ヴァン・フランセがフランスの風を吹き込みます。おなじみのプーランクの《六重奏曲》はもちろん、今回は19世紀フランスの女流作曲家、ルイーゼ・ファランクの《六重奏曲》を聴けるのが魅力的。

2012年度を締めくくるのは、おなじみのバッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)。彩の国さいたま芸術劇場では初めての《ヨハ

ネ受難曲》をお届けします。BCJのデビュー盤として取り上げられた点で、いわばBCJの原点ともいえるこの作品には、バッハの魅力がぎゅっと詰まっています。

機器が発達して、手軽に身近に音楽を聴けるようになった今も、そしてまた未来を迎えても、演奏家と聴衆とホールの三位一体で生まれる1回限りの演奏は、そこに居合わせなければ味わえない大切な宝物。新年度も、彩の国さいたま芸術劇場でとおきの時間をお過ごしください。



Les Vents Français

Photo: 青柳聡



Bach Collegium Japan

Photo: 加藤英弘

東京文化会館、神奈川県立音楽堂と同じく前川國男の設計による埼玉会館は、長年にわたり、埼玉県内の音楽愛好家から親しまれてきました。すっきりとバランスよく聞こえるのが美点の大ホールでは、オーケストラ公演を中心にラインナップを組んでいます。

毎年恒例のNHK 交響楽団公演は、井上道義指揮のベートーヴェン・プログラム。ソリストには、マエストロが昨年5月にもベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲を共演して「今回のソリストに是非」と強力推薦するフランスのベテラン、オリヴィエ・シャルリエを迎えます。メインは「田園」交響曲。

■ Saitama Hall Concert Schedule

6.24 (日) 16:00 NHK 交響楽団 井上道義 (指揮) オリヴィエ・シャルリエ (ヴァイオリン)
12.1 (土) 14:00 新日本フィルハーモニー交響楽団 ダニエル・ハーディング (指揮)
2013.1.7 (月) 14:00 埼玉会館ニューイヤー・コンサート2013 ウィーン・MARO・アンサンブル

Lunch Time Concert ランチタイムのひととき、優雅にクラシック

平日昼に開催している埼玉会館ランチタイム・コンサート。2012年度は、N響ハーブ奏者の早川りさこを中心にしたN響メンバーによるアンサンブル、大島文子（クラリネット）と大島直子（ピアノ）の姉妹

埼玉会館大ホールでオーケストラ三昧

また、新日本フィルハーモニー交響楽団公演には、昨年の大震災時に東京に滞在中で、チャリティー公演を積極的に行ったダニエル・ハーディングが登場。日本人に人気のチャイコフスキーはもちろん、ストラヴィンスキー《春の祭典》での冴えたタクトには要注目です。

シーズン・プログラムとしてすっかり定着した埼玉会館ニューイヤー・コンサートには、N響第1コンサートマスターの篠崎史紀率いる「ウィーン・MARO・アンサンブル」が登場。今回は、従来から公演開催の要望が寄せられていた平日昼間の公演です。冬休み最終日、小学生のお子様とご一緒に、というのも良いですね。



Michiyoshi Inoue

©Orchestra Ensemble Kanazawa



Daniel Harding

Photo:Harald Hoffmann/DG



Wien MARO Ensemble

■ Schedule

各回12:10～13:00 全席指定1,000円

第18回 5.8 (火)
NHK 交響楽団メンバーによるアンサンブル

第19回 8.28 (火)
大島文子 (クラリネット) & 大島直子 (ピアノ)

第20回 12.21 (金)
東混ゾリステン (東京混声合唱団メンバー)

第21回 2013.3.13 (水)
東京交響楽団メンバーによる弦楽四重奏



『夏休みオーケストラランド!』 Photo: 加藤英弘

カッション・ミュージアムを迎えた『パークッション★パラダイス』でリズムの楽しさをお届けいたします。

Family Concert お子様連れで気軽にコンサート

小さな頃から良い音楽に親しんでもらいたい。子供が小さいからなかなか演奏会に足を運べないという方にも、お子様と一緒に音楽を味わっていただきたい。そんな願いを込めて、3歳以上を対象に開催しているファミリー・コンサート、2012年度は3会場で開催します。

毎年大好評の『夏休みオーケストラ

ランド!』は、熊谷会館で。今回も聴きごたえたっぷりのプログラムをご用意しています。

また、昨年、大震災の影響で彩の国さいたま芸術劇場の改修工事が遅れてしまい、中止になった『宮川彬良&アンサンブル・ベガ』公演の開催が決定（午後の公演は小学生以上対象）。

埼玉会館では、打楽器アンサンブル、パー

7.29 (日) 14:00 (休憩あり 16:00 終演予定)
熊谷会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラランド! 飯森 範親 (指揮) 朝岡 聡 (MC) 東京交響楽団 服部百音 (ヴァイオリン)
8.11 (土) ①11:30 (休憩なし12:40 終演予定) ②16:00 (休憩あり18:00 終演予定)
彩の国さいたま芸術劇場ファミリー・コンサート 宮川 彬良 & アンサンブル・ベガ
11.10 (土) 14:00 (休憩あり 16:00 終演予定) 埼玉会館ファミリー・コンサート パークッション★パラダイス

Review 2011.10-12 の彩の国のアーツ



Photo: 谷古正彦

■ PLAY 10月29日～11月6日
『あゝ、荒野』
(原作: 寺山修司 脚本: 夕暮マリー 演出: 蜷川幸雄)



Photo: 池上直哉

■ DANCE 11月12日～13日
ジェローム・ベル『ザ・ショー・マスト・ゴー・オン』



Photo: 加藤英弘

■ MUSIC 11月26日
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.16 ダヴィッド・フレイ



Photo: 加藤英弘

■ MUSIC 12月10日、11日
シリーズ「バッハとの対話」
Vol.1 & Vol.2 堤 剛 無伴奏チェロ組曲全曲演奏会

寺山修司の長編小説の初舞台化で、昭和の新宿を舞台にボクシングを通して奇妙な友情を結ぶ2人の青年と彼らを取り巻く人たちの物語。ローエングリンの前奏曲が流れる中、松本潤と小出恵介がラストに繰り広げるボクシングシーンは圧巻。熱演の俳優陣に惜しめない拍手が贈られました。

これまで世界50都市以上で上演され、身体、音楽、社会、その関係性に向けられたジェローム・ベルの鋭い視線が垣間見える代表的傑作の日本版。世界的な大ヒット曲の数々と、公募で集まったパフォーマーによる意表を突くパフォーマンスに、客席は熱気に包まれました。

第16回目はフランス出身のフレイ。今回の日本リサイタル・デビューは彩の国と九州の2公演のみ、満を持してのリサイタルとなりました。細部まで丁寧に彫琢されたモーツァルトとベートーヴェン、その繊細さと才気あふれる演奏に聴衆は大いに刺激を受けました。

劇場再スタートのシーズンに、じっくりとバッハに向きあうシリーズ。日本を代表するチェリスト堤 剛が2日間にわたり無伴奏全曲を披露。音楽ホールを満たす豊かな響きは、まさに宇宙的な広がりが感じさせ、終演後のホワイエは静かな興奮と、満足そうな笑顔にあふれていました。



Photo: 加藤英弘

■ MUSIC 11月5日
カレファックス・リード・クインテット



Photo: 加藤英弘

■ PLAY 11月20日
彩の国さいたま寄席 四季彩亭
～彩の国落語大賞受賞者の会 桃月庵白酒



Photo: 宮川舞子

■ PLAY 12月6日～20日
さいたまゴールド・シアター第5回公演『ルート99』
(作: 岩松 了 演出: 蜷川幸雄)



Photo: 加藤英弘

■ MUSIC 12月15日
埼玉会館ランチタイム・コンサート
第16回 十亀正司(東響首席クラリネット奏者)と仲間たち

古楽、ジャズ、現代音楽など幅広いジャンルを得意とし、リード楽器のみで編成されたオランダのアンサンブル。バラバラに分解された楽器を鳴らしながら次々組み立てていくというユニークな演出でコンサートはスタート。終演後はたくさんの聴衆がキラキラ目を輝かせていた、興奮と喜びにあふれたステージでした。

平成22年度の大賞受賞者・白酒師匠の会。古典落語の中にも現代的センスで毒気の利いた鋭い芸を織り交ぜるのが白酒師匠の特徴。この日に披露した「代脈」と「抜け雀」の2席でもその持ち味を遺憾なく発揮、ゲストの三遊亭歌之介師匠の「爆笑龍馬伝」とともに観客の爆笑を誘いました。

岩松 了のゴールドへの新作書き下ろし2作目。さいたまネクスト・シアターの俳優も参加し、互いに刺激し合い、目を張る成長をみせた俳優たち。岩松戯曲の巧みな構成、それを読み解き具現化する蜷川演出で、彼らでしかない舞台表現に挑戦、観客の心に深く響く舞台となりました。

気軽に音楽を楽しむランチタイム。スコットランドの民族衣装をまといながらのバグパイプ演奏から始まり、トルコの楽器ズルナやボックス型の打楽器カホン、人參や大根をくり抜いて作ったクラリネットなど、バラエティに富んだ楽器とピアノのアンサンブルで、世界中の楽器の魅力に迫りました。

EVENT CALENDAR		2012.1.15 - 2012.3.31	
1	January		
15	日	DANCE	【提携公演】第7回 DMJ 国際ダンス映画祭 ※詳細は Dance and Media Japan (HP:www.dance-media.com/videoance/) にて
16	月	臨時休館日 (彩の国さいたま芸術劇場・熊谷会館)	
17	火		
18	水		
21	土	MUSIC	光の庭プロムナード・コンサート 敬虔と悦楽 ～17世紀、18世紀のイタリアとドイツの音楽～ 開演14:00 会場＝彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ 出演＝菅 哲也 (オルガン)、藤井雄介 (テノール) 曲目＝フィッシャー：シャコンヌ ヘ長調 ほか ※前号(36号)に掲載した開演時間に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
22	日	PLAY	埼玉伝統芸能フェスティバル ～埼玉の里神楽～ 開演13:00 会場＝彩の国さいたま芸術劇場 大ホール ※詳細は埼玉県文化振興課 048-830-2879 ※観覧募集は申込締切ました。
23	月		
24	火		
25	水		
26	木		
27	金	CINEMA	彩の国シネマスタジオ A.『こまどり姉妹がやって来る ヤァ!ヤァ!ヤァ!』 B.『大鹿村騒動記』 上映時間 10:30(A) / 12:50(B) / 15:15(A) / 17:15(B) / 19:50(A) ※詳細は P.21 にて
28	土	PLAY	彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～新春落語特選会 開演19:00 ※詳細は P.22 にて
29	日	CINEMA	彩の国シネマスタジオ A.『こまどり姉妹がやって来る ヤァ!ヤァ!ヤァ!』 B.『大鹿村騒動記』 上映時間 10:00(B) / 12:40(A) / 14:40(B) / 17:05(A) / 19:20(B)
30	月	DANCE	コンドルズ 埼玉公演2012 新作『十二年の怒れる男』 開演14:00 / 19:00 ※詳細は P.22 にて
31	火	MUSIC	バッハとの対話 Vol.3 寺神戸 亮 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ全曲演奏会1 開演14:00 ※詳細は P.22 にて
1	水	PLAY	新春狂言 万作・萬斎の世界 開演15:00 会場＝埼玉会館 大ホール ※13:00～狂言講座を開催いたします。詳細は P.22 にて
2	木		
3	金	CINEMA	彩の国シネマスタジオ A.『こまどり姉妹がやって来る ヤァ!ヤァ!ヤァ!』 B.『大鹿村騒動記』 上映時間 10:00(A) / 12:10(B) / 15:15(A) / 17:15(B) ※12:10上映回終了後、日本大学芸術学部教授・田島良一氏によるアフタートークあり
4	土	TALK	蜷川幸雄公開対談シリーズ NINAGAWA 千の目第24回 こまどり姉妹 (歌手) × 蜷川幸雄 開演12:00 会場＝彩の国さいたま芸術劇場 小ホール ※申込みは締切ました
5	日	MUSIC	バッハとの対話 Vol.4 寺神戸 亮 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ全曲演奏会2 開演14:00 ※詳細は P.22 にて
6	月	DANCE	コンドルズ 埼玉公演2012 新作『十二年の怒れる男』 開演15:00
7	火		
8	水		
9	木		
10	金	DANCE	【提携公演】彩の国ダンスセッション2012 スペシャル講習会 A:ピラティス 18:00～19:30 C:キャラクターダンス 19:45～21:15 会場＝彩の国さいたま芸術劇場 大練習室 ※詳細は埼玉県舞踊協会 HP (http://www.saitamaken-buyoukyokai.jp/) にて
11	土		
12	日		
13	月		
14	火		
15	水		
16	木		
17	金		
18	土		
19	日		
20	月		
21	火		
22	水		
23	木		
24	金		
25	土		
26	日		
27	月		
28	火		
29	水		
30	木		
31	金		
1	土		
2	日		
3	月		
4	火		
5	水		
6	木		
7	金		
8	土		
9	日		
10	月		
11	火		
12	水		
13	木		
14	金		
15	土		
16	日		
17	月		
18	火		
19	水		
20	木		
21	金		
22	土		
23	日		
24	月		
25	火		
26	水		
27	木		
28	金		
29	土		
30	日		
31	月		

12	日	CINEMA	彩の国シネマスタジオ 『アメイジング・グレイス』 上映時間 10:30 / 13:35 / 16:30
13	月	臨時休館日 (彩の国さいたま芸術劇場)	
14	火		
15	水	臨時休館日 (熊谷会館)	
16	木		
17	金		
18	土		
19	日		
20	月	PLAY	さいたまネクスト・シアター第3回公演 『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』 開演18:30 ※詳細は P.3～5 にて
21	火	PLAY	さいたまネクスト・シアター第3回公演 『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』 開演13:00
22	水	PLAY	さいたまネクスト・シアター第3回公演 『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』 開演13:00 / 18:30
23	木	CINEMA	彩の国シネマスタジオ 埼玉会館上映会 羽田澄子演出作品特集 A.『嗚呼 満蒙開拓団』 B.『遙かなるふるさと 旅順・大連』 上映時間10:00 (A) / 13:40 (B) / 16:30 (A) ※10:00上映回終了後、羽田澄子氏によるアフタートークあり、13:40上映回は羽田澄子氏による舞台挨拶後上映となります
24	金	CINEMA	彩の国シネマスタジオ 埼玉会館上映会 羽田澄子演出作品特集 A.『嗚呼 満蒙開拓団』 B.『遙かなるふるさと 旅順・大連』 上映時間10:00(B) / 13:00(A) / 16:00(B)
25	土	PLAY	さいたまネクスト・シアター第3回公演 『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』 開演13:00
26	日	PLAY	さいたまネクスト・シアター第3回公演 『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』 開演13:00
27	月	PLAY	さいたまネクスト・シアター第3回公演 『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』 開演18:30
28	火	PLAY	さいたまネクスト・シアター第3回公演 『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』 開演13:00 / 18:30
29	水	PLAY	さいたまネクスト・シアター第3回公演 『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』 開演18:30
30	木		
31	金		
1	土	PLAY	さいたまネクスト・シアター第3回公演 『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』 開演13:00
2	日		
3	月		
4	火		
5	水		
6	木		
7	金		
8	土		
9	日		
10	月		
11	火		
12	水		
13	木		
14	金		
15	土		
16	日		
17	月		
18	火		
19	水		
20	木		
21	金		
22	土	MUSIC	埼玉会館ランチタイム・コンサート 第17回 通崎睦美の世界 ～よみがえる平岡奏一の木琴～ 開演12:10 ※詳細は P.22 にて
23	日	PLAY	『ピーター・ブルックの魔笛』 開演19:30 ※詳細は P.10～11 にて
24	月	PLAY	『ピーター・ブルックの魔笛』 開演19:30
25	火	MUSIC	光の庭プロムナード・コンサート 第50回記念スペシャル 開演14:00 会場＝彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ 出演＝大塚直哉 (オルガン)、大西律子・廣海史帆 (バロックヴァイオリン)、堀内由紀 (ヴィオラ)、夏秋裕一 (チェロ)、栗田涼子 (ヴィオローネ)
26	水	PLAY	『ピーター・ブルックの魔笛』 開演15:00
27	木	PLAY	『ピーター・ブルックの魔笛』 開演15:00
28	金		
29	土		
30	日		
31	月		

3才以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

前売りチケット発売情報 (～2012.3.15)

PLAY 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～立川志らくの会

春の四季彩亭は、平成12年度彩の国落語大賞受賞、落語家活動をはじめ、映画評論家、劇団主宰など幅広い分野で活躍中の立川志らくの会。どうぞお楽しみに。

チケット発売日
一般：1月27日(金) メンバーズ：1月22日(日)
日時＝4月14日(土) 開演17：00 会場＝彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演＝立川志らく、立川こしら、立川志ら乃
チケット(税込)＝一般3,000円 メンバーズ2,700円 ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者)2,000円



photo:加藤英弘

MUSIC 埼玉会館ランチタイム・コンサート 第18回 NHK 交響楽団メンバーによるアンサンブル

お昼のひとつときに気軽に楽しむクラシック。5月はN響メンバーが登場。ハーブ、フルート、弦楽器によるアンサンブルをお届けします。



過去の公演より photo:加藤英弘

チケット発売日
一般：2月5日(日) メンバーズ：2月4日(土)
日時＝5月8日(火) 開演12：10 会場＝埼玉会館 大ホール
出演＝早川りさこ (ハーブ)、神田寛明 (フルート)、船木陽子 (ヴァイオリン)、谷口真弓 (ヴィオラ)、渡邊方子 (チェロ)
曲目＝サン＝サーンス：白鳥 モンティ：チャールダーシュ ほか
チケット(税込)＝全席指定1,000円

PLAY 『海辺のカフカ』

チケット発売日
一般：2月18日(土) メンバーズ：2月11日(土)
※メンバーズの方には、別途ご案内するプレオーダーがあります。
※公演詳細は P.9 にて

彩の国シネマスタジオ LINE UP 2012.1-3

1月27日(金)～29日(日) 会場：彩の国さいたま芸術劇場

※上映時間は、P.20のカレンダーをご覧ください

『こまどり姉妹がやって来る ヤァ!ヤァ!ヤァ!』

「こまどり姉妹」が「歌と涙と笑い」で乗り越えた半生を描いた感動音楽ドキュメンタリー。

監督＝片岡英子 出演＝長内栄子、長内敏子 (2009年/日本/71分)

『大鹿村騒動記』

昨年逝去した原田芳雄の遺作、「村歌舞伎」を背景に描かれた人間味あふれる群像劇。

監督＝阪本順治
出演＝原田芳雄、大楠道代、岸部一徳 ほか (2011年/日本/93分)



『こまどり姉妹がやって来る ヤァ!ヤァ!ヤァ!』
©2009 ALTAMIRA PICTURES, INC.

2月23日(木)～24日(金) 会場：埼玉会館

※上映時間は、P.20のカレンダーをご覧ください
※会場が異なりますのでご注意ください

～羽田澄子演出作品特集～

『嗚呼 満蒙開拓団』

満州事変以降、農業移民として大陸へと渡った日本人の悲劇を映し出す。
(2008年/日本/120分)

『遙かなるふるさと 旅順・大連』

2009年の中国・旅順の全面開放をきっかけに、監督が自身の生まれ育った街を訪ね、激動の歴史と、現在の姿を見つめる記録映画。
(2011年/日本/110分)



『遙かなるふるさと 旅順・大連』

MUSIC ピアノ・エトワール・シリーズ

Vol.18 エフゲニ・ボジャノフ

Vol.19 ヤン・リシエツキ

Vol.20 河村尚子

アンコール! Vol.1 ラファウ・ブレハッチ

“未来の巨匠”の聴き比べも好評な劇場オリジナル企画。今年度からは、過去の出演者が再登場する「アンコール!」がスタート。



エフゲニ・ボジャノフ

ヤン・リシエツキ
photo:Andras Schram

河村尚子
photo:寺澤有雅

ラファウ・ブレハッチ
© Felix Broede/DG

チケット発売日
【4公演セット券】一般：2月11日(土・祝) メンバーズ：2月4日(土)
【Vol.18 単独券】一般：3月3日(土) メンバーズ：2月25日(土)

日時・曲目＝【Vol.18】6月9日(土) 開演15：00
リスト：ダンテを読んで グノーの歌劇《ファウスト》からのワルツ ほか
【Vol.19】9月29日(土) 開演14：00
メシアン：《前奏曲集》より第1～4曲 ショパン：12の練習曲 作品25 ほか
【Vol.20】11月25日(日) 開演14：00
ベートーヴェン、ドビュッシー、スクリャービンの作品を予定
【アンコール! Vol.1】2013年2月2日(土) 開演16：00
ベートーヴェン、シマノフスキ、ショパンの作品を予定

会場＝彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
チケット(税込)＝
【4公演セット券】一般・メンバーズ：正面席13,500円/バルコニー席11,500円(学生5,000円)
【単独券】【Vol.18、Vol.19、Vol.20】一般：正面席3,500円/バルコニー席2,500円(学生1,000円)
メンバーズ：正面席3,200円
【アンコールVol.1】一般：正面席5,000円/バルコニー席4,000円(学生2,000円)
メンバーズ：正面席4,500円

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
※2月23日～24日の羽田澄子演出作品特集は埼玉会館 小ホール
【料金】大人一律1,000円/小中高生800円(当日支払いのみ)

2月10日(金)～12日(日) 会場：彩の国さいたま芸術劇場

※上映時間は、P.20のカレンダーをご覧ください

『アメイジング・グレイス』

200年の時を越えて歌い継がれる名曲《アメイジング・グレイス》の誕生秘話、そしてこの曲に支えられながら歴史を動かした一人の政治家の偉大な人生を描いた実話に基づく物語。



監督＝マイケル・アブテッド
出演＝ヨアン・グリフィズ、ロモーラ・ガライ ほか (2006年/イギリス/118分)

©2006 BRISTOL BAY PRODUCTIONS LLC. ALL RIGHTS RESERVED

3月9日(金)～11日(日) 会場：彩の国さいたま芸術劇場

※上映時間は、P.20のカレンダーをご覧ください

『八日目の蟬』

今日まで母親だと思っていた人が、自分を誘拐した犯人だった―。直木賞作家・角田光代の最高傑作の呼び声が高い『八日目の蟬』。衝撃の人間ドラマが待望の映画化。



原作＝角田光代 (中公文庫)
監督＝成島 出
出演＝井上真央、永作博美 ほか (2011年/日本/147分)

©2011『八日目の蟬』製作委員会

発売中公演情報

PLAY 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～新春落語特選会

日時＝1月27日(金) 開演19:00 会場＝彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演＝桂 平治、三遊亭遊馬、三遊亭小遊三(ゲスト)、三笑亭夢吉
チケット(税込)＝一般3,000円 メンバース2,700円 ゆうゆう割引(65歳以上、障がい者) 2,000円

DANCE コンドルズ 埼玉公演2012新作 『十二年の怒れる男』

日時＝1月28日(土) 開演14:00／19:00、29日(日) 開演15:00
会場＝彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
構成・映像・振付＝近藤良平
出演＝青田潤一、石淵 聡、オクダサトシ、勝山康晴、鎌倉道彦、ぎたろー(新人)、古賀 剛、小林顕作、スズキ拓郎(New Face)、田中たつろう、橋爪利博、平原慎太郎(FA)、藤田善宏、山本光二郎、近藤良平
チケット(税込)＝一般：前売4,500円／当日5,000円／学生2,500円
メンバーズ：前売4,100円／当日4,500円

MUSIC 彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画 パッハとの対話 [Vol.3&Vol.4] 寺神戸 亮 無伴奏ヴァイオリンのための ソナタとパルティータ全曲演奏会 [Vol.5] 小山実稚恵の《ゴルトベルク変奏曲》

日時・曲目＝
【Vol.3】 1月28日(土) 開演14:00
J. S. バッハ：ソナタ第1番 口短調 BWV 1001、パルティータ第3番 ホ長調 BWV 1006、
ソナタ第3番 ハ長調 BWV 1005
【Vol.4】 1月29日(日) 開演14:00
J. S. バッハ：パルティータ第1番 口短調 BWV 1002、ソナタ第2番 イ短調 BWV 1003、
パルティータ第2番 二短調 BWV 1004
【Vol.5】 2月25日(土) 開演14:00
J. S. バッハ：《平均律クラヴィーア曲集第2巻》より 第15番 ト長調 BWV 884
最愛の兄の旅立ちに寄せるカプリッチョ BWV 992
ゴルトベルク変奏曲 BWV 988

会場＝彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
チケット(税込)＝
【Vol.3&Vol.4通し券】
一般・メンバーズ：正面席6,000円
【各1回券】一般：正面席4,000円／バルコニー席3,000円(学生1,500円)
メンバーズ：正面席3,600円
※通し券は、財団ホームページではお取り扱いしておりません。
※バルコニー・学生席：Vol.3 残席僅少 Vol.4・Vol.5 予定枚数終了

PLAY 新春狂言 万作・萬斎の世界

日時＝1月28日(土) 開演15:00 会場＝埼玉会館 大ホール
※13:00～(12:30開場・約1時間予定) 高野和憲、月崎晴夫による狂言講座を開催いたします。
チケットをお持ちの方はどなたでもご参加いただけます。
※狂言講座終了後、公演準備が整うまで一旦客席よりご退場いただきます。
出演＝野村万作、野村萬斎、石田幸雄、高野和憲、月崎晴夫 演目＝『昆布売』[仁王]
チケット(税込)＝一般：B席3,000円(学生2,000円) メンバース：B席2,700円
※S席・A席は予定枚数終了

MUSIC 平成23年度邦楽地域活性化事業 邦楽ガラ・コンサート ～伝えたい、日本の心～

日時＝2月4日(土) 開演14:00 会場＝埼玉会館 小ホール
出演＝吉川由里子、佐々井麻矢、平野寿里、藤井佐和、武田瑠山、中小路奈都子、鈴木真為、千葉 暢、樋口千清代
曲目＝宮城道雄：春の海 牧野由多可：花舞 作曲者不詳：尾上の松 山田検校：熊野 ほか
チケット(税込)＝全席自由500円 ※3歳未満のお子様は入場をご遠慮ください。
お問合せ＝埼玉県文化振興課 TEL.048-830-2879
主催＝埼玉県、(公財)埼玉県芸術文化振興財団 共催＝(財)地域創造
後援＝埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会、川口市教育委員会、入間市教育委員会、富士見市教育委員会

【チケットの購入方法について】

【電話予約】 チケットセンター

0570-064-939

10:00～19:00(休館日を除く) ※一部携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

DANCE 提携公演 彩の国ダンスセッション2012

〔前夜祭〕『レクイエムから未来へ 駆ける 翔る 架ける!!
～歌は翼を舞い、踊りは心を歌った～』

日時＝2月4日(土) 開演18:00 会場＝彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
チケット(税込)＝全席自由3,000円
【本公演】『日韓 アジアの華麗なる競演 ～アジアの熱い風～』
日時＝2月5日(日) 開演17:00 会場＝彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
出演＝韓国国立バレエ団 埼玉県舞踊協会 ほか
チケット(税込)＝全席自由5,000円
お問合せ＝埼玉県舞踊協会 TEL.048-882-7530 FAX.048-882-7549(月・木 10:00～15:00)
ホームページ http://www.saitamaken-buyoukyokai.jp/
主催＝埼玉県舞踊協会 提携＝(公財)埼玉県芸術文化振興財団

PLAY さいたまネクスト・シアター 第3回公演 『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』

詳細はP.3～5にて

MUSIC ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.17 金子三勇士

日時＝3月18日(日) 開演15:00 会場＝彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目＝リスト：ハンガリー狂詩曲第12番、スペイン狂詩曲
バルトーク：ルーマニア民俗舞曲、ピアノ・ソナタ ほか
チケット(税込)＝一般：正面席3,500円／バルコニー席2,500円(学生1,000円)
メンバーズ：正面席3,200円

MUSIC 埼玉会館ランチタイム・コンサート 第17回 通崎睦美の世界 ～よみがえる平岡養一の木琴～

日時＝3月22日(木) 開演12:10 会場＝埼玉会館 大ホール
曲目＝モーツァルト：《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》第1楽章 ほか
チケット(税込)＝全席指定1,000円

PLAY 『ピーター・ブルックの魔笛』

詳細はP.10～11にて

PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』

詳細はP.6～7にて

MUSIC レ・ヴァン・フランセ

日時＝4月21日(土) 開演15:00 会場＝彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目＝モーツァルト：ピアノと管楽のための五重奏曲 KV452 プールンク：六重奏曲 ほか
チケット(税込)＝一般：正面席5,000円／バルコニー席4,000円(学生2,000円)
メンバーズ：正面席4,500円

MUSIC 諏訪内晶子 ヴァイオリン・リサイタル

日時＝4月24日(火) 開演19:00 会場＝彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出演＝イタマル・ゴラン(ピアノ)
曲目＝フアリャ：スペイン民謡組曲 エネスコ：ヴァイオリン・ソナタ第3番「ルーマニアの民俗様式」ほか
チケット(税込)＝一般：正面席7,500円／バルコニー席6,000円(学生2,500円)
メンバーズ：正面席7,000円

MUSIC NHK 交響楽団 井上道義(指揮) オリヴィエ・シャルリエ(ヴァイオリン)

日時＝6月24日(日) 開演16:00(開場15:00) ※15:25～15:40指揮者によるプレコンサート・トークあり
会場＝埼玉会館 大ホール
曲目＝ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61、交響曲第6番「長調」作品68「田園」
チケット(税込)＝一般：S席6,500円／A席5,500円／B席4,500円(学生2,000円)
メンバーズ：S席6,000円／A席5,000円／B席4,000円

公演詳細は、財団ホームページ

http://www.saf.or.jpにて

【窓口販売】※休館日を除く
・彩の国さいたま芸術劇場 10:00～19:00
・埼玉会館 10:00～19:00 ・熊谷会館 10:00～17:00

【SAF Online Ticket】
一般発売初日10時より受付開始し、公演前日23:59まで受付いたします。
・財団ホームページ http://www.saf.or.jp
・携帯サイト http://www.saf.or.jp/mobile/
※利用登録が必要です(無料)。



THEATER BRIDGE

Information

〈埼玉県内在住・在学の中学生・高校生限定〉 さいたまネクスト・シアター第3回公演 「2012年・蒼白の少年少女たちによる『ハムレット』」 稽古場見学会を開催します！

彩の国さいたま芸術劇場では、劇場の活動を広く県民の皆さんに知っていただくため、公演以外にもさまざまな活動を行っています。そのうちのひとつが「稽古場見学会」。出演者やスタッフがどのように作品を創り上げて行くのか。普段は見ることのできない貴重な稽古場の様子を見ることが出来る見学会は、大変ご好評いただいています。今回は、平均年齢25歳のさいたまネクスト・シアターの最新作に向けた稽古の様子を、埼玉県内在住・在学の中学生・高校生の皆さんにご見学いただけます。ご応募お待ちしております。



message

プロフェッショナルな俳優たちの芝居の稽古を見たことがありますか？

僕の稽古は厳しいと言われていますが、厳しいどころではありません、暴力的です。

というのは嘘です。

実は、細かくいろいろなことをやってますので、ぜひ僕たちの稽古を見てください。

学校の授業とは違って、また新しい刺激がそこから受け取れるのではないかと思います。
稽古場でお待ちしています。

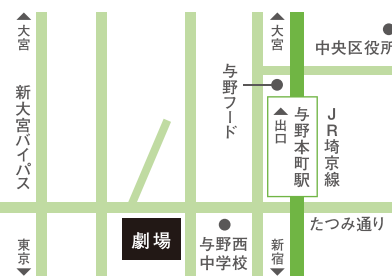


彩の国さいたま芸術劇場芸術監督
蜷川幸雄

【日時】2月5日(日)13:00～
※稽古場見学会は約1時間を予定しています。
※稽古場見学会終了後は参加者の皆さんと、蜷川幸雄・出演者との質疑応答を予定しています。
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大稽古場 【定員】30名(参加費無料)
【対象】埼玉県内在住・在学の中学生および高校生
【応募方法】ハガキに以下の事項をご記入の上、締切日までにご応募ください。
①郵便番号・住所 ②氏名(フリガナ) ③年齢 ④学校名・学年
⑤希望人数(ハガキ1枚につき2名様まで)
※2名様でご応募の場合、同伴者の方の②～④をご記入ください。※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。なお、当選通知の発送をもって、抽選に代えさせていただきます。
【応募締切】1月27日(金)必着
【応募・お問合せ先】〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1
彩の国さいたま芸術劇場「ハムレット」稽古場見学会係
TEL. 0570-064-939(休館日を除く10:00～19:00)

ACCESS MAP アクセスマップ

彩の国さいたま芸術劇場



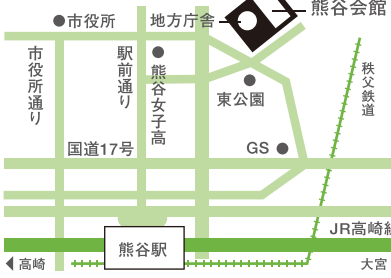
〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1
電話：048-858-5500(代) ファックス：048-858-5515
電車でのアクセス JR 埼京線与野本町駅(西口)下車 徒歩7分
バスでのアクセス JR 北浦和駅から西武バス大久保行き
「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

埼玉会館



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4
電話：048-829-2471(代) ファックス：048-829-2477
電車でのアクセス JR 京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分

熊谷会館



〒360-0031 埼玉県熊谷市末広3-9-2
電話：048-523-2535(代) ファックス：048-523-2536
電車でのアクセス JR 高崎線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

■サポーター会員

(公財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蜷川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(公財)埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株)与野フードセンター／(株)亀屋／武州ガス(株)／(株)松本商会／(有)香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／(株)テレビ埼玉ミュージック／埼玉りそな銀行
(株)パシフィックアートセンター／(株)アサヒコミュニケーションズ／FM NACK5／東京ガス(株)／カヤバ システム マシナリー(株)／(株)タムロン／(株)十万石ふくさや
森平舞台機構(株)／東芝ライテック(株)／埼玉トヨタ自動車(株)／(有)齋賀設計工務／ゲレッツ・ジャパン・スズゼン(株)／武蔵野銀行／浦和ロイヤルバインズホテル
(株)アルピーノ／国際照明(株)／(株)サイサン 会長 川本宜彦／三国コカ・コーラボトリング(株)／埼玉スバル自動車(株)／桶本興業(株)／(株)佐伯紙工所
(株)太陽商工／(株)しまむら／アイジャパン(株)／(有)六辻ゴルフセンター／不動産開発(株)／ビストロ やま／埼玉縣信用金庫／(株)栗原運輸／彩の国SPグループ
(有)プラネッツ／関東自動車(株)／(株)クマクラ／(株)デサン／(株)中島運輸／セントラル自動車技研(株)／(株)アズマン／丸美屋食品工業(株)／ポラスグループ
ひがし歯科／埼玉トヨペット(株)／公認会計士 宮原敏夫事務所／(株)価値総合研究所／(株)埼玉交通／医療法人 顕正会 蓮田病院／(株)ウイズネット
サイデン化学(株)／アイル・コーポレーション(株)／五光印刷(株)／旭ビル管理(株)／ヤマハサウンドシステム(株)／(株)エヌテックサービス／(株)クリーン工房
(株)つばめタクシー／(株)サンワックス／(株)綜合舞台／(株)タクトコーポレーション／広総業(株)／(財)さいたま住宅検査センター／(株)コマーム／(株)国大セミナー
(株)NEWSエンターテインメント／(株)オーガス／イープラス／六三四堂印刷(株)／医療法人 樺会 林整形外科／埼玉県整形外科医会

H23.12.15現在／一部未掲載

【問合せ先】(公財)埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507



SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2012.1-2

平成24年1月15日発行37号(隔月15日発行) 第37号(1月-2月) 発行人:竹内文則 発行:公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500